

## 2021年衆議院北海道2区補欠選挙での市民と野党の共闘の取り組みの経過と成果と課題

市民の風・北海道事務局総括

### ○2020年からの市民と野党の共闘の取り組みについて

4月04日 市民の風と3党の幹事長書記長会談。

7月29日 日本共産党北海道委員会との懇談。

8月05日 立憲民主党道連との懇談。

9月25日 3野党への要請。

10月22日 市民の風と3党の幹事長書記長会談。

12月08日 市民の風と3党の幹事長書記長会談。

- ・コロナ禍のもとではあったが、予想される衆議院総選挙にむけて、北海道における市民と野党の共闘体制づくりのための協議を幹事長書記長会談などで断続的に行っていた。
- ・市民と3野党の「共通政策づくり」と「共同行動」への模索を続けていった。
- ・市民と3野党の「共同街宣」と「政策シンポジウム」を企画・準備していた。

### ○突然の吉川議員辞職と2区補欠選挙

12月21日 吉川元農水相が辞意表明→2区補欠選挙へ

12月23日 緊急役員会議、24日緊急事務局会議。

12月28日 立憲民主党道連と日本共産党北海道委員会への共闘への要請。

- ・突然、2区で補欠選挙！－12区の中で一番共闘体制をつくるのが難しい選挙区である。
- ・すでに立憲の松木氏、共産の平岡氏が立候補することを表明していた。
- ・野党間の共闘の合意によって統一候補を実現することはそう簡単ではなかった。
- ・まずは市民と3党の間で「共闘合意」の形成をめざしていった。
- ・「共闘」のための三点合意の提案－①政治とカネ、②コロナ対策、③政治の流れを変える
- ・「共闘」のための「共同行動」としての「共同街宣」と「シンポジウム」を提案した。

### ○年明けすぐに市民と野党の「共同行動」へ

01月06日 事務局会議

01月16日 市民と野党の共同街頭演説会（大通り3丁目&麻生イオン前）

01月30日 オンラインシンポジウム市民と野党の共闘で政治の流れを変えよう！

02月01日 市民の風と北区東区の会との懇談。

- ・年明けすぐに、市民と野党の「共同街頭演説会」と「シンポジウム」を開催した。
- ・「共闘」のための三点合意については、ほぼ合意が形成できていった。
- ・候補統一のための立憲民主党道連と共産党北海道委員会との間の直接協議が始まった。
- ・が、協議は平行線のまま、なかなか具体的な進展はみられなかった。

### ○松木さんの政治資金収支報告書訂正問題

02月12日 松木けんこう氏 政治資金収支報告書訂正についての記者会見。

02月12日 連合北海道を訪問。藤森氏と会談。

02月13日 共産党北海道委員会を訪問。千葉書記長と会談。

02月15日 立憲民主党道連を訪問。梶谷幹事長と会談。

02月21日 市民の風会員総会。立憲の梶谷幹事長、共産の青山委員長が挨拶。

03月08日 立憲民主党道連を訪問。松木氏と梶谷幹事長と会談。

- ・松木氏の政治資金収支報告書の訂正問題が新聞で報道される。
- ・このことで「共闘」への合意づくりの作業がおおきく遅れることになる。
- ・市民の風の側から立憲民主党の側へ説明を求める。
- ・市民の風総会で立憲民主党梶谷幹事長から説明があった。
- ・松木氏本人からも政治資金収支報告書の訂正についての説明をうける。
- ・松木氏の政治資金の運用と収支報告については、今後適切におこなわれるよう要請。
- ・市民の風北海道として、この件について事務局内で協議し、基本的な見解をまとめた。

### ○2区補選での市民と野党の共闘による政策協定にむけての動き

03月06日 共産党北海道委員会を訪問。千葉書記長と会談。

- ・共闘による統一候補実現のための協定書の策定の要請をお願いされる。
- ・できれば長野で合意された協定書のレベルくらいでお願いしたいとのこと。

03月12日 事務局会議。

03月14日 市民の風と3党の幹事長書記長会談（エルプラザ）

- ・2区補選での共闘と統一候補実現のための政策合意への協議開始を要請する。
- ・政策協定案を市民の風がつくることを了解してもらう（3点合意+α）。

03月16日 立憲民主党道連を訪問。梶谷幹事長と会談。

- ・長野での協定書の問題で立憲本部からの強い意向が入っているということ。
- ・なるべく連合や国民ともめるような協議はしないでほしいという意向のよう。
- ・立憲道連としては市民が間に入っただけの協定の成立はこわしたくないと思っているが。
- ・協定に原発ゼロ、消費税、核兵器禁止条約を盛り込むことについては難しいとのこと。

03月17日 事務局会議。・市民の風からの政策協定案を作成する（3点+5点の案）

03月18日 市民の風からの政策協定案を3党に提示する(22日までに回答を求める)。

03月19日 立憲・梶谷幹事長、共産・千葉書記長と市民の風案で合意する方向で確認。

03月22日 市民連合拡大運営委員会。→福山氏とお話する→立憲の福山氏に伝える。

03月23日 立憲の勝部氏・梶谷氏と連絡をとる。その後、立憲・共産の協議はじまる。

- ・この時に立憲側が協定書案を出したと思われる（原発、核兵器、安保法制ぬきの）。

03月24日 立憲民主党道連と共産党北海道委員会との間で政策協定について合意。

- 03月25日 立憲民主党から市民の風と社民党道連への説明を受ける。
- 03月27日 市民の風と3党の幹事長書記長会談。市民の風会員集会（エルプラザ）
- 03月28日 2区補選市民と野党の共闘と統一候補実現のための政策協定調印式。
- ・協定書には脱原発、消費税、核兵器禁止、安保法制廃止はもりこまず。
  - ・3点合意を基本にして、政権交代、政治の流れを変える、いのちと人間らしい暮らし、憲法・立憲主義・民主主義、ジェンダー平等などを盛り込んだものになる。
  - ・メディアを通して、2区補選での市民と野党の共闘の成立と統一候補実現の姿を明らかにできた。

### ○選挙期間中の中での市民と野党の「共同行動」

- 04月09日 松木けんこう氏総決起集会。（東区民センター）
- 04月11日 2区補選連絡調整会議。
- ・選挙期間中の共闘行動を協議するが、選対側から「あれもできない、これもできない」と言われる。「できない」のではなく、「できること」の知恵と工夫を呼び掛ける。
  - ・市民と3野党の横並びの共同行動を「できるところで、できるかたちで」やることの提案。
- 04月13日 2区補選告示－麻生イオン前第一声街宣。
- ・選挙期間中を通じて、事務局では松木氏の遊説日程を毎日配信した。
  - ・選挙期間中毎日4か所で「投票に行こう」の街頭宣伝を行い15人が参加した。
  - ・「投票に行こう」チラシを3000枚作成し配布した。
- 04月14日 2区補選連絡調整会議。
- ・立憲の「政連車」を使って、本人抜きの市民と3党横並びの共同街頭演説の実現へ。
- 04月17日 市民と野党の共同街頭演説①②。（札幌駅前・新琴似ビバホーム前）
- 04月18日 市民と野党の共同街頭演説③④。（麻生イオン前、東雁来ザビッグ前）
- 04月20日 市民と野党の共同街頭演説⑤。（北24条道銀前）
- 04月21日 市民と野党の共同街頭演説⑥。（麻生イオン前）
- 04月23日 市民と野党の共同街頭演説⑦。（東区役所前）
- 04月25日 投票日－20時開票開始と同時に当選確実！
- ・低かった投票率－コロナ、自公が候補者を立てなかった、争点があはつきりしない、乱立
  - ・それでも立憲・共産支持者の8割が松木氏に投票。自公支持者の2割も投票。
  - ・共産党から自公支持者まで、幅広い支持と共闘によって勝利した。
  - ・たくさんの困難がありながら、なんとかそれを乗り越えて共闘の絆をきらないで闘った。
  - ・この5年間の共闘の中でつちかってきた絆と信頼関係の地盤があったからこそ。
  - ・お互いに知恵と工夫を出し合いながら、共闘のための合意形成をつくることができた。

## ○今回の共闘の成果と課題

### <成果>

- (1) 北海道、長野、広島のか所での国政選挙で、市民と野党の共闘による統一候補を実現し、菅政権に対して国民のNO!の意思表示をつきつけて勝利することができた。
- (2) 自公政権に対して、野党の側がまとまって、1対1の構図をつくることによって、国民に対して明確な選択肢を示すことが有効であり、市民と野党の共闘の重要性や意義が明らかになった。
- (3) そのような共闘体制をつくるにあたって、市民の側が大きな役割を果たしたことによって、その意義と重要性が明らかになり、市民の側がたんなる接着剤や連結ギアとしてだけでなく、政党の側から市民に対して積極的な役割をはたしてもらうことへの期待が大きくなってきた。

### <課題>

(1) 立憲野党の統一候補・松木けんこう氏の勝利は大きな意味があったが、そもそも自民党が候補を擁立できなかった即ち不戦敗を選択したのであるから、勝って当然であった。17年総選挙の票をみると、当時の松木氏（希望の党）の票74425票と共産党 金倉氏の票52626票 合計127051票。吉川氏の票は104824票。野党統一候補が実現したら勝利がかなり高い確率で実現したはずだったしかし、今回、コロナ禍、補選のみということで選挙が盛り上がらなかったということ差し引いても、自民が不戦にもかわらず、松木氏の得票率は43%、過半数に達していない。鶴羽、山崎、長友の保守三人の票を合計すると65552票、松木氏の59664票を上回っている、つまり仮に、本番の総選挙で、「与党統一候補」が実現したならば、野党統一候補になったとしても厳しい闘いになることが予想される。総選挙まで、野党共闘の意義や、菅政権の酷さを伝え、政治を変えよう、という流れをどう作るか、野党にとっても、市民の風にとっても重要な課題である。

(2) 投票率をどうあげるか。本選になれば全国的な話題になり全道的にも注目されることから、投票率は今回ほど低く(30,4%)はないと思われるが、今回市民の風として「選挙に行こう！キャンペーン」に取り組み、市民運動らしい形でできたと思うが、結果を出すのは難しいことを痛感した。支持政党第一位は無党派=支持なし、この層にどうやって投票所に足を運んでもらえるか。一票がいかに大事か、ということをどのような方法で伝えるか、時間はないなか、市民の風一体となって知恵を出し合いたい。

(3) 今回、統一候補として松木氏を擁立し勝利したが、真に“共闘”できたか、その中身には不十分な点が多々あった。私たちがめざす共闘を妨害する動きがあったのは事実で、今後それをどう克服するかは大きな課題である。立憲野党が本当に共闘し、政権交代をめざしていることが見えなければ、有権者の大きな期待は広がらない。市民と野党共闘の幅を広げれば広げるほど、合意できる共通政策についての幅は狭くなっていき、微妙な balan

スゲームになっていく。そうした中で、共闘の輪をぎりぎりで維持していくための最大公約数的な部分をどうつくるか、どう維持していくか、どう広げていくかが、今後市民の側が果たすべき役割として重要になってくるのではないか。

(4) 市民の風内部の活動の進め方については、事務局内では頻繁に ZOOM も併用した会議や ML で意見を交換して行ったが、市民の風の全会員にも必要な情報を周知して行えたかという点不十分だったと言わざるを得ない。今後は、もっと全会員の知恵や力を結集して活動できるよう、創意工夫する必要がある。

#### ○今後の日程

- ・ 5月23日(日) 午後2時～ 市民の風・会員集会 (zoom による)
- ・ 5月末～6月初めに立憲野党各党との懇談・意見交換を行う。
- ・ 5月末～6月初めに、各区の会の連絡会を開催する。
- ・ 6月中に市民の風と各野党の幹事長書記長会談を行い、総選挙での共闘に向けての「共通政策づくり」と「共同行動」を提案する。